

令和2年度 第4回次期右京区基本計画編集会議 議事録（要約）

| | |
|---------------|--|
| 開催日時 | 令和2年12月24日（木）14時00分～16時00分 |
| 開催場所 | オンライン会議室（zoom） |
| 出席委員 （敬称略） | 射場和子，岡田淳子，鈴木理夫，高岡宏行，田沢直，土井勉，徳丸國廣， 中川恵美子，松田玲子，山田大地，山本直樹 |
| 欠席委員 （敬称略） | 折居孔一，岡本洋志，坂口博翁，鈴木義康，高野拓樹，永橋爲介，脇田邦男 |
| オブザーバー 事務局 | 朝倉眞一，西原秀倫（京都市まちづくりアドバイザー） 北川洋一，牧村雅史，式部圭，石田大二郎，河村眞一（右京区役所） 戸田幸典，嶋崎雅嘉，森（株式会社地域計画建築研究所） |
| 資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 次期右京区基本計画編集会議委員名簿 ・ 次期右京区基本計画素案 ・ パブリックコメント募集冊子案 |

1 開会

- ・ 出席委員の確認

2 これまでの編集会議の振り返り

- ・ 事務局からこれまでの計画編集会議の振り返りについて資料を示し，説明。
- ・ 事務局から計画のコンセプトづくりについて，資料を示し，説明した。合わせて本日の会議の次第について説明。

3 計画素案の修正内容について

- ・ 事務局から前回編集会議での意見を踏まえて修正した計画素案について，修正内容のポイントを絞って資料を示し，説明。
- ・ 質疑を呼びかけたが，質問・意見ともになかった。

4 パブリックコメント案の内容について

- ・ 事務局からパブリックコメント（以下，パブコメ）募集冊子案と募集内容についてのポイントを絞って資料を示し，説明。
- ・ 3グループに分かれてパブコメ募集案に対する感想や意見交換。
- ・ 各グループでの意見要旨を各グループ記録者から紹介。

【グループ1】

「未来を教えてください」という表紙の言葉があるが、「あなたと一緒に右京の未来を考えるきっかけにしましょう、一緒に考えましょう」というようなもう1歩手前の言葉が良いのではないか。チラシをつくり、QRコードをつけて配布すると良いのではないか、といった意見があった。また、今まで異なる、1人ひとりの意見を聞こうという姿勢は斬新で良いといった感想が出された。

【グループ2】

初めて見る人に最後まで読んでもらえるか不安であり、途中でここまで読んでどう思ったかなどのコメントで最後まで読んでもらえる工夫をしてはどうかという意見があった。また、「あなたは何をしたいか」と言われても普段から考えていない人も多く、難しいことから、内容を読んで何かしたいと思ったことを尋ねるような文章が良いのではないか、書いたことがどう反映されるのかイメージしにくいように感じるので「思い」と、「計画について」を分けて尋ねてもいいのではないかという意見も出された。

【グループ3】

コロナ禍の中での学生の辛い状況、行政とは異なり民間でできる居場所づくり、プラットフォームづくりの事例の話をお聞きした。パブコメ案については一人ひとりの思いを反映できるので、面白い、楽しいという感想や作り手の熱い気持ち、ミライ会議参加者の熱い気持ちが伝わってくるという感想が出されていた。

- グループでの意見共有の後、西原アドバイザー・朝倉アドバイザー進行による、全体での意見交換。

西原：どの世代もわくわくを感じられるようなパブコメにするという壮大な挑戦だが、みなさん全体でのご意見はないか。高岡会長があまりお話できなかったとのこと。いかがか。

高岡：前回の編集会議を欠席している間に基本計画が前に進んでいることを知り、びっくりしたと同時に、楽しい、期待という気持ちを持った。右京区の自治会連合会を任されている立場から常々「わたしごと から みんなごと」になればいいと思っている。コロナ禍において学区では何もできない状況におかれているところもあるが、私の学区でこのパブコメについて発信し、素朴な意見を聞き、右京の未来について語ってもらえれば、次につながると思っている。計画に関係なく、地域の思いを聞いてみたい、それを他の学区にも発信し、聞いてみたい。これまでの計画はどれだけの区民が読んだり、見たり、聞いたり、理解したりできているか疑問がある。みなさんに発信し、読んだり、話したりできるとよい右京区につながると思う。

朝倉：パブコメ案は本冊を16ページにまとめているが、ミライ会議に参加していた方はどうか。じっくりくるだろうか、雰囲気など伝わるだろうか。

松田：雰囲気まで伝わるかという点と難しいが、単発、その場で盛り上がる、良い意見が聞けたという印象の区民会議とは異なり、ミライ会議は1年続けていることで、出会えなくても顔見知りができ、「この人に声をかけてみよう」、「相談してみよう」、「一緒にやってみよう」、反対に声がかかれば「できることしますよ」という関係性ができた。継続は力なりということを実感した。ミライ会議の参加者は一般の区民だが、面白い人がたくさんいる。年上のおじいさんが地域を良くしたいと熱く語る姿など、やりたいうことを楽しそうに話す姿が素晴らしい。

普段は一緒に活動している同じ考え方の人と話すことが多いが、ミライ会議には様々な人が来られており、いろいろな考えに触れられ、視野が広がった。

区役所によるミライ会議へのサポートも素晴らしい。時間を取って一生懸命やってくれている。例えるなら、私は今、なんとなく行動の「種」を持っている感覚だが、「ひまわりの花を咲かせたい」、「トマトを育てたい」など既に具体的な人もいれば、「何かできないかな」という人もいて、温度差もあるが、なんとかその種を撒かせようとサポートしていることがすごく伝わってくる。パブコメを最後まで読んでもらえるか疑問を持つことが申し訳なくなるほど区役所はがんばっている。「わたし」が「わたしたち」につながっていく、そのことで右京区が良くなればよいと思う。

朝倉：内容はもちろん、多くの人に手にとってもらうことも必要だが、表紙や裏面のアイデアシートにご意見はないか。

西原：表紙が読んでみたいと思えるメッセージになっているだろうか。裏面がわくわくしたときの思いをぶつけるような問いかけになっているだろうか。

土井：グループ1からの意見紹介であったが、表紙の「未来を教えてください」という表現には、教えるものがないと思う人にも読んでもらうための工夫が必要。また、その下部分も文字が多い。「お聞きした意見は実現できる」ということを伝えることが大事。そのために、第1期は太秦天神川駅などインフラ整備ができた、第2期は区民会議やたくさんの支援事業を進めてきた、love local love 右京、サンサ右京1階でコンサートもできるようになってきたなど、わかりやすい成果を伝え、次期計画では、「次のまちをつくるのは、あなたたち、一緒につくる」ということをビジュアルで前面に出した方がよい。多くは書けないが、誇りをもって成果をきちんと書いておくことが必要。

西原：確かに文字が多い。未来を「教えてください」に行政の遠慮を感じる。この表現は再検討が必要。長い文章は作り手の熱い思いが書かれているが、中身にも書かれていること。「あなたの書いたことが形になる、それを教えてほしい」ということをビジュアルでどのように表現するか。

土井：太秦天神川駅、コンサートの写真などで良い。見てすぐにわかるもの、できる限り多

くの人が知っているものを掲載したら良い。

松田：「教えてください」を キャッチコピー的に「あなたの思いやアイデアが右京の未来を変えます」という言葉にしてはどうか。

朝倉：その上で、「一緒にやりましょう」だから「教えてください」と伝えると分かりやすい。

西原：事務局にお尋ねするが、表紙の内容はまだ変更できるか。

式部：イラストについてはぎりぎり間に合うかどうかというスケジュールになっている。

西原：裏面のアイデアシートの問いかけについてはどうか。先のグループでの意見交換では「全部読み切ることがしんどいので、息抜きや励ましの部分を」という意見があった。「どう思いましたか」など、質問を分けて掲載しても良いと思ったが、どうか。

徳丸：おそらく最後まで辿り着かないのではないか。「このようなご意見も寄せられています」という答えが途中で1, 2行入っていると、より分かってもらえるのではないか。

西原：他のみなさんがどんなことを言っているのか、どのように生かされているか見えないと読みづらい、それが見えたとわくわくするという意見だったが、他はどうか。

古川：区民意見募集（パブコメ）なのか、アイデアシート（意見用紙）なのか疑問。15 ページまでは区民が考えてきたアクションやアイデアがまとめられているが、16 ページ目に温度差があると感じた。裏面のアイデアシートの「アクション」の部分にはもう1工夫必要。「感じられるのでしょうか？」だと「はい・いいえ」で答えられてしまう、区民から引き出そうとしている意見が多様だが、その意味で、考えるヒントになるFAQのようなものがあった方がいいのではないか。

朝倉：裏面はデザイン面での工夫、表紙との整合を考える必要がある。

西原：裏面のデザインとの温度差が大きいが、どうか。

石田：実際は全体のデザインにそったものになる。

西原：16 ページについて、15 ページの続きとしてあるものなのか、表紙の続きの回答としてあるのか。という疑問がある。

田沢：パブコメ案を見て、同じく文字が多いと感じる。一番大事なことは小さな子どもからお年寄りまで目を通してもらえるような資料。例えば、文字が長いところは漫画にする、漫画を右京区に縁がある人が書けば、オール右京のような冊子になる。読んでわくわくすることが書かれている冊子だからこそ、より多くの人にどれだけ感じてもらえるかが大事。

計画を作るだけでなく、結果を出すことにもみんなで携わる、実現に向けて力を合わせることを考えなければならない。そういう意味で、みんなでできること、区役所でできることを明確にし、計画通り進んでいることが分かる「見える化」ができると実感につながる。小さな子どもにも、「まちがこのように変わっていくから、みんなが力を合わせていく必要があるよ」というような教育・発信ができれば良い。

5 意見を集めるための方法や機会について

西原：次は、内容や見せ方ではなく、20万人にどう届けるか、読んでもらうかという視点で議論したい。チャットを使って、アイデアを書いてもらいたい。

- 以下、チャット上に書かれたアイデアについて、委員ごとに整理し掲載（原文のまま・順不同）。

土井：SNSの活用、Facebook、インスタ、ツイートなどで発信する。

支援事業の応募者、ファンクラブの皆様などの皆様のロコミ経由で配布、アドレスの紹介。

社会心理学的なアプローチを考えると、ロコミがインパクトがある。ということで、時期にもよるが「区民会議」をパブコメの意見交換をする集まりとする。参加者は必ず複数名の人に説明をして渡すことにする。

三歳児検診などの際もチャンス（かな）。

社協の催しに参加するおじさまたちにも知っていただく。

「おかんが言うことには、なんや基本計画に関係があるらしいんやけど…」 「それはパブコメやろ」 「いや、おかんが言うには…」 （以下、略）

徳丸：分科会（自治会など）でまず周知。それから配布する。

地域の役員に先に説明し、それから周知を依頼する

田沢：意見を出してもらうのはメールで意見をもらう。QRコードなどを冊子に貼り付ける。

市役所のHPのご意見受付メール欄に飛ぶようにする。

鬼滅の刃みたいなキャラクターを作りマンガにして、発信と区民の意見募集を告知する

語り部を作れないものでしょうか？

区民運動会や人が集まる色々な場所でその場所に応じたコメントを告知させてもらう

パブコメやパブコメ募集のポスターをいかに面白く発信してもらえるか、SNS？写メ？などで募集する

山本：パブリックコメントだけでなく、「これはワクワクしそう！というポスター、CMやLINEなどのSNSに発信する。コミュニティーで積極的に話し合いをしてもらう。

嵐電、京都市バスなどの車内広告に、わかりやすい漫画にしてパブリックコメント内容を伝える。

右京区の白い地図ポスターを掲示し、それぞれそこに書き込めるようにしてその後それを回収するものにする

別の意見になるが、右京区民だけでなく、区外、京都市外、他地域から右京区のことを聞いてみても良いのではないか。他人の視点からみるとみえないところがみえる。

嶋崎：インスタとかで、ハッシュタグ付けて、それぞれが考える「はじめの一步」を書いて

いく。できるだけ、すそ野が広がるイメージでハードルの低いものも。例えば「地域の商店街で好きなお店で食事します」「地域でとれる野菜を買います」とか。

区長カフェの支店を同時多発的に出してPR

戸田：編集会議と未来会議参加者が家族・友達・同僚に説明して、配布、その人の家族・・・と地道に拡散。みなさんが語ることが最も大事。

みなさんのアイデアはパブコメ募集だけでなく計画を進めていく時に、多くの区民に参加してもらうための場や機会を広げるためにも活用、残しておきたいと思いました。右京の未来、そのためのアクションを考えるのは、パブコメで終わりではないので・・・

高岡：一世帯に一部届けてほしい。市民しんぶんみたいに

山田：小学校・中学校で配布し描いてもらう、支援制度各イベントで書いてもらう、ライブとかで配布キャラバンする、あなたの思いをサポートするための計画づくりであることを伝えるデザインにする、区役所で届出にきた人に必ず配布する、商店街などで買い物した人に渡してもらうようにする。

転入・転出・出生届出した人には必ず渡るようにする、銀行などの待ち時間、病院などの待ち時間に書いてもらう

私も書きました、と有名な人に書いてもらい拡散する

区民新聞の裏面全てをパブコメ用紙にする

嵐電にQRコードやパブコメ募集中とラッピングする

映画村に協力してもらってキャラと集めに行く

新聞折り込み

古川：小学校・中学校の児童・生徒に一斉配布し、家庭でこの冊子について話し合ってもらおう→子供、親、祖父母の三世代間での共通話題の時間をとってもらい、子供：「パブコメって何？おじいちゃん」爺：「パブコメって〇〇のことなや？お母さん、こないだの選挙でもパブコメってニュースで出てたやんな？」母：「私知らんけどお父さん知ってる？」父：「それは秋田県の名産のことやろ…」

個人的には小学校で配布されている「GoGo 土曜塾」の冊子からの提供情報が、結構家庭に持ち込まれている感じがします。そのような媒介方法も活用できればと思いました。

北川：キャラバン隊でコントでやりましょう！

- チャットの意見を確認しながら、意見交換を行った内容を次に示す。

石田：冊子を公共施設等に配架していても手に取ってもらうのは難しい。まずは編集会議の委員のみなさんにパブコメを書いてもらうためのアクションを考えてほしい。例えば、いついつに地域の会合があるので、説明して書いてもらうといったイメージで考えていただきたい。

式部：パブコメ募集開始は3月。締め切りは4月に入るかどうかというスケジュールを予定している。

西原：きちんと手元に届くようにすること、目につくようにすることが必要。1世帯に1部配布するには10万部必要とのこと。さすがにそれは難しいかもしれないが、子どもたちが手に取り、言葉にするためにはどうか。小中学校で配ることが良いか。

朝倉：山田さんの意見に「配布キャラバン」があるように、配って話す場が子どもらにも必要だろう。

西原：例えば児童館の子どもらがこれを見て意見を書くかどうか。

岡田：小学生は簡単に書いたとしても読んで書くことは難しい。児童館は低学年が多い。説明してから書くという手順を経たほうが回収率は高い。子どもに分かりやすいような表現のものを用意してもらえれば、児童館の先生がうまく説明し、かなりの回収率が期待できると思う。

朝倉：田沢さんの意見にあるように語り部を手分けして担うことができると良い。

西原：人が集まる場所、会議や施設、検診などできちんと思いを伝える「役割」が必要。それは誰がするのか。区役所かキャラバン隊というアイデアであれば、誰が担うのか。まずキャラバン隊を募集するのか。

朝倉：鬼滅の刃のようなキャラクターをつくってというアイデアも面白い。

西原：キャラバン隊がどういうものになるか分からないが、隊をつくらなくても、それぞれが面白く、拡散するということもある。意見が集まるかどうか別として、計画が広まる機会として重要。

朝倉：嶋崎さんが書いているが、ハッシュタグをつけて1人ひとりが発信する。つながりを広げることが大事。写真を撮って広げるなど、1人ひとりが広げることもある。

西原：パブコメを集めることと、計画を周知することの両方の視点からいろいろなことができるということだが、区役所がこれらアイデアを同時に実施するイメージが持てない。これらをどう実現していけばいいか。このままだと面白いアイデアでおしまいになってしまう。何ができそうか。キャラバン隊もだが、出向く機会もつくれたらいいのか。実際に取り組む人が必要。冊子を渡して書いてくださいだけでは難しい。

朝倉：冊子を渡して、説明しながら書いてもらうということが基本になる。募集期間中にそのようなことができる機会が思い当たれば、教えてほしい。

山本さんの意見にある、区外からも、右京がどう見えているのかも意見を聞くという点についてはQRコードも使って広げていけると良い。

6 今後の予定

北川：内容の濃い議論を長時間ありがとうございました。春ごろにパブコメ募集したいと考えている。その時期に人が集まる場がどうなっているかに左右されるが、みなさんのネットワークを活かして募集機会を広げてもらいたい。計画への意見をもらうだけ

でなく、計画をPRし、読んでもらうきっかけでもあり、意見を出した後の計画に関心をもって手に取ってもらえる機会、非常に大きく重要な機会である。右京区民20万人のわくわくにつながるように、どうぞ自由にみなさんなりのやり方で広げていただきたい。具体的なスケジュールは決まり次第お示ししたい。

計画と並行して開催してきた右京かがやきミライ会議は、昨年からスタートしたいわゆるシーズン1の最終回として1月24日に開催する予定である。その後シーズン2を始めたいと考えているが、ミライ会議には、例えば、何かしたいと思っていた人、話し合うことが楽しいと来ているという人など、いわば普通の右京区民が混じりあって参加している。最終回は対話を重ねる中でどう変わってきたのか、ミライ会議のみなさん自身に振り返っていただき、語っていただく場を予定している。次期計画に書いていることが本当に起こりうるのか、つまり、何も思っていなかった人が、自分の暮らしのスタイルを変えて、まちの将来のために何かやってみよう、動いてみようとするのがありえるのか、生で見えていただける機会である。計画がうまくいくかを、先行的に見ようとしたのがミライ会議である。ぜひ1月24日のミライ会議にご参加いただきたい。コロナ感染拡大状況によっては、実際に集まれるか見えないが、オンラインでも開催する。

式部：オンライン開催となった場合、今日と同じように区役所でオンラインに参加する環境を用意することも可能である。

7 編集長による総評

土井：パブコメは計画を知ってもらうための一里塚であることがみなさんとの議論でわかってきた。きっかけづくりとしてしっかり取り組むパブコメにできればよい。計画について市民の意見を聞く通常のパブコメから、さらに欲張って、あなたは何かできませんかを聞いている。この計画がずっと続いていくことをもっと意識しておく必要がある。5年間の計画の第1歩目にパブコメで取り組めると良い。多くの人を巻き込み、自分のことを言うだけでなく、行動につないでいくということである。

紙を使つての配布は大事だが、費用対効果を考えると、修正も含めて、カスタマイズもできるウェブでの発信、プラットフォームが重要。リアルに集まる場も大事であり、事情が許せば集まって話ができる機会をつくっていくこと、それは編集員だけでなく、関心を持っている人に広げていくことが大事である。

ミライ会議についても様々な人がいるのだと驚いた。これらの人たちが反応し、友達を連れてきてもらえれば、魅力的なまちになる。その第1歩としてのパブコメと計画づくりをみなさんと一緒に、しっかり取り組みましょう。

式部：今日は長時間に渡り、ご参加いただきありがとうございました。みなさまよいお年をお迎えください。